

健康 コラム

今年、猛威を振るった インフルエンザ



秋田厚生医療センター
感染管理室 感染管理認定看護師 佐藤 真理子 主任

① はじめに

季節性インフルエンザとは、インフルエンザウイルスに感染することによって起こる感染症です。38度以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感等の症状が比較的急速に現れるのが特徴です。併せて普通の風邪と同じように、喉の痛み、鼻汁、咳等の症状も見られます。お子様ではまれに急性脳症を、御高齢の方や免疫力の低下している方では肺炎を伴うなど、重症になることがあります。

② どうやって感染するの？

インフルエンザの感染経路は飛沫（ひまつ）感染と接触感染があります。飛沫感染は、感染した人が咳をすることで飛んだ、飛沫に含まれるウイルスを、別の人が口や鼻から吸い込んでしまい、ウイルスが体内に入り込むことです。また、感染した人が咳を手で押さえた後や、鼻水を手でぬぐった後に、ドアノブ、スイッチなどに触れると、その触れた場所にウイルスを含んだ飛沫が付着することがあります。その場所に別の人が手で触れ、さらにその手で鼻、口に再び触れることにより、粘膜などを通じてウイルスが体内に入り感染します。これを接触感染といいます。

③ 今年の流行状況と感染対策

インフルエンザは毎年12～3月に流行し、短期間で多くの人に感染が拡大します。今年2018～2019年シーズンにおいても、例年以上の猛威を振る

う大流行がみられました。特に2019年1月の第4週（1月19日～1月27日）では、過去20年間で最大の罹患患者数を記録しました。（図1）

当院においても、2つの病棟で集団発生し、病棟閉鎖・面会禁止とするなど、患者さん・ご家族の方には大変ご迷惑やご心配をおかけしました。病院や施設などにおいて感染を予防するためには、

- ① 流行期に入る12月上旬までにインフルエンザワクチンを接種する。
 - ② 流行期に入ったら、患者さん・利用者さん・面会家族からの持ち込みを防ぐため、発熱患者さんのスクリーニングをする。流行状況に応じて、面会制限や面会禁止といった措置をとる。
 - ③ 飛沫感染予防対策として、正しくマスクを着用する。
 - ④ 接触感染予防対策として、手指衛生を励行する。
- などのことが重要になります。

④ 検査、治療と予防投与

インフルエンザは1～3日の潜伏期間（感染しても症状が出現しない期間）があり、発症の1日前から感染力があります。インフルエンザかな、と思ったら、発症から12～24時間の間に検査をする最も感度が良い（インフルエンザだった場合、検査で陽性と判断されやすい）とされています。また、発症してから48時間以内に抗インフルエンザウイルス剤を服用することが推奨されています。

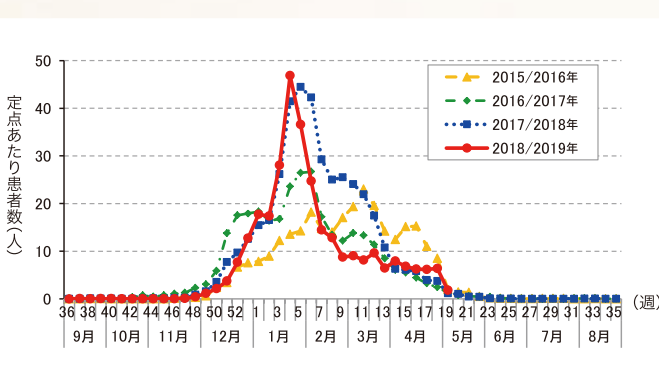


図1.秋田県におけるインフルエンザ患者の発生状況
出典：秋田県感染症発生情報〈週報〉(2019.5.12 現在)

病院入院中や施設入所中の方が大部屋で発症してしまった場合、直ちに治療を開始し、個室に移動してもらいます（7日間）。発症した方との同室者は、主治医と相談し必要なら抗インフルエンザウイルス剤の予防投与を検討します。予防投与の対象者の範囲については、複数の病室に渡って患者が発生した場合や職員の間で発症が続く場合は、感染の拡大を防止する目的で病棟全体やフロア全体での投与を考慮します。しかし予防投与の効果は70～80%程度とも言われていて、予防投与をしても発症することはあります。正しい知識を持って、毎年やってくるインフルエンザを撃退しましょう！